



<http://www.tama.ac.jp/>

経営情報学部

【多摩キャンパス】  
〒206-0022  
東京都多摩市聖ヶ丘4-1-1  
TEL: 042-337-1111(代)

グローバルスタディーズ学部

【湘南キャンパス】  
〒252-0805  
神奈川県藤沢市円行802番地  
TEL: 0466-82-4141(代)

大学院 経営情報学研究科

【品川サテライト・多摩キャンパス】  
〒108-0075  
東京都港区港南2-14-14  
品川インターシティフロント5階  
TEL: 03-5769-4170(代)

*Global*

現代の志塾 多摩大学

*Local*

# 多摩大学が目指すグローバルと何か

多摩のローカリティを究めることにより、  
グローバルに目を開く“グローバルティ”という思想を持つ、  
多摩地域の活性化をリードするグローバル人材——  
すなわち“多摩グローバル人材”を育成します。

## ■多摩大鳥瞰図絵

東京の辺境にある多摩ではなく、日本と世界の中心に多摩を置くと新しい視点が浮かび上がります。羽田空港と横浜港は世界につながるターミナル。日本海の彼方に中国、韓国、北朝鮮、ロシアなどを擁するユーラシア大陸が視野に入ります。鳥の視点で見た鳥瞰図絵から、地域性(ローカリティ)と世界性(グローバルイズム)を捉え直すことができます。



## INDEX

### 多摩大学の基本姿勢

- 1 多摩大学が目指すグローバルとは何か 多摩大鳥瞰図絵
- 2 学長メッセージ
- 3 大学教育の改革者として 多摩大学教育史 / 理事長メッセージ
- 4 多摩大学の理念 建学の精神 / 基本理念 / 使命・目的 / 個性・特色
- 5 多摩大学の教育理念 = “志”教育

### 学びについて

- 7 経営情報学部 学びの体系 / カリキュラム / 教授陣
- 8 グローバルスタディーズ学部 学びの体系 / カリキュラム / 教授陣
- 9 大学院 MBAコース / ビジネスデータサイエンスコース
- 10 ゼミの多摩大
- 11 アクティブ・ラーニングの先進大学・多摩大学
- 12 グローバル社会との連携 海外研修 / 留学・海外インターンシップ / 地域連携・産学連携 / 多摩学
- 13 田村学園概要図 データで見る多摩大学 アクセスマップ

## — Message —

地域社会に深く根ざした  
教育機関が育む、  
柔らかい知性と問題解決能力



第五代学長  
寺島 実郎

<http://www.tama.ac.jp/terashima/>

1947年北海道生まれ。早稲田大学大学院政治学  
研究科修士課程修了後、三井物産入社。米国三井物産フ  
シントン事務所長、三井物産常務執行役員、早稲田大  
学大学院アジア太平洋研究科教授等を歴任し、現在、日  
本総合研究所 理事長、文部科学省 日中韓大学間交  
流・連携推進会議委員、同省 グローバル人材育成推  
進事業プログラム委員会委員、同省 大学の国際化  
のためのネットワーク形成推進事業プログラム委員会  
委員、経済産業省 資源エネルギー総合資源エネ  
ルギー調査会総合部会委員、国土交通省 首都圏広域地  
方計画有識者懇談会委員等兼任。1994年石橋湛山賞  
受賞、2010年4月早稲田大学名誉博士学位。主な著  
書は、『若き日本の肖像 — 一九〇〇年、欧州への旅』  
(新潮社)、『リベラル再生の基軸 — 脳力のレッスンIV』  
(岩波書店)、『(寺島実郎監修)全47都道府県幸福  
度ランキング2014年版』(東洋経済新報社)、『何のた  
めに働くのか — 自分を創る生き方』(文春新書)、『世  
界を知る力』(PHP出版)、他多数。また『報道ライブ21  
InsideOUT』『現代ビジネス講座』世界を知る力』MCと  
して出演中。

平成元(1989)年に開学した多摩大学は、バブル後の失われた時代、平成という時代と歩みを同じくして歴史を刻んできた大学です。冷戦が終わり、グローバル化とIT革命が進んでいく相関のなかで、社会状況、経営環境が変化するという問題認識を背景に、これから起こる問題を解決できる人材、高い志を抱く人材の輩出を目指すなど、大学教育の在り方を示し、教育改革をリードしてきました。

いま、世界は「多極化」という表現では収まらない「全員参加型秩序」に向かって動き始めています。いかなる国や民族も胸を張って自己主張し、自分たちの幸福を希求する全員参加の時代。そうしたなかで、これからの日本や世界を担う人材、現場を支える若い知性を育てるとともに、地域社会に深く根ざした教育機関として、新たな役割を大学は担わなければなりません。学長就任から7年の歳月を重ね、私は今、その手応えをしっかりと感じています。

学長就任の前年から開講した、学生と社会人を対象とした「リレー講座」は、延べ参加者数が8万人を超え、多くの地域住民の参画と、非常に高いリピート率を誇っています。内向する時代にあって、世界のなかの日本を再考し、歴史を背景に地域を考えていくことの試みは、強い関心を持って社会に受け入れられ、東京西部地区の知的インフラとして発展していくものと実感しています。

# 大学教育の改革者として

多摩大学は「国際性」「学際性」「実索性」という3つの理念のもと開学しました。

従来の米国流資本主義の世界観を見直し、  
アジア、ユーラシアを視座に据えた人材育成を行うなど、  
産業社会に応えるべく変革を続けています。



【学校法人田村学園理事長】  
田村 嘉浩

1961年東京生れ。東京大学法学部卒業後、1984年通商産業省（現在の経済産業省）に入省。スタンフォード大学アジア太平洋研究所及びモスクワ国際関係大学への留学、海外勤務、地方勤務などを経験。日本社会を覆う停滞感と新興諸国の活力溢れる姿を目の当たりにし、教育、人材育成の重要性を痛感し転職を決意。2003年7月、在ロシア日本国大使館参事官の勤務からの帰国と同時に田村学園常務理事に就任。2004年4月、多摩大学目黒中学・高等学校長、2015年4月、田村学園理事長に就任。

田村学園は、「社会の進展に貢献できる自立した有為な人材の育成」を目指し1937年に創設された学園です。当初は女子実業人教育からスタートしましたが、その後の時代の変化の中で順次発展を遂げ、現在では多摩大学・大学院を頂点に男女共学の中高一貫校や幼稚園を備えた一貫教育の体制が整った学園へと変貌を遂げております。

多摩大学は2014年に開学25周年を迎えました。今あらためて、その歴史を振り返ってみますと、常に様々な改革に挑戦し、大学教育の在り方の理想を徹底して探求してきた姿がはっきりと見て取れます。

現在、我が国を取り巻く国際環境は大きな変動の真ただ中にあります。また、情報技術をはじめ技術革新のスピードも速く、産業社会の変化も大変激しい時代です。こうした中、人材育成に関して大学が果たすべき役割は、従来にも増して大きなものになっています。

本学としては、今後とも「新しい時代に活躍できる人材」の育成を目指して、これまでの大学教育の改革者としての伝統を忘れずに、「教育の場」として更なる進化を続けていけるよう努めて参ります。

## キーワードで見る 多摩大学教育史

<p>1989-1995</p> <p>初代学長期   野田 一夫</p>	<p>1995</p> <p>二代学長期   中村 秀一郎</p>	<p>1995-2001</p> <p>三代学長期   グレゴリー・クラーク</p>	<p>2001-2008</p> <p>四代学長期   中谷 巖</p>	<p>2009-</p> <p>五代学長期   寺島 実郎</p>
---------------------------------------	-----------------------------------	--	--------------------------------------	-----------------------------------

<h3>大学史を画した 多摩大学の誕生</h3> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 高い志 — 既存概念を打破する大学構想</li> <li>● 学生消費者主義に基づく学生満足度の向上 無休講、VOICE(学生による授業評価)制度、コア・タイム(オフィスアワー)、講義終了時の拍手、アドバイザー制度、教授会の土曜開催</li> <li>● 斬新な「実学」思考の教育内容 ティーチインの開催、「国際性」「学際性」「実索性」を体現したカリキュラム、自己表現の重視、社会経験豊富な教授陣</li> <li>● 社会に開かれた教育 産学協同への方向性 — 公開寄付講座、コミュニカレッジ、多摩21世紀市民大学、市民教育への取り組み</li> <li>● ファカルティ・デベロップメントの推進 研究雑誌TIMIS JOURNALの刊行、FRC(教員間の研究論文発表)と授業マネジメント研究会</li> </ul>	<h3>新たな教育改革運動と 初年度基礎教育</h3> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 新たな教育改革運動と初年度基礎教育 TRAP(初年度基礎教育体系)の導入、経営基礎I、情報基礎I、英語教育(ビジネスシミュレーション)</li> </ul>	<h3>たくましい学びを求めて</h3> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 相対評価制の導入</li> <li>● 「第二世代」の教授陣とカリキュラム</li> <li>● 語学教育とボランティア活動 英語の「暗号解読」授業、ボランティア活動の単位認定</li> <li>● 基礎教育の発展 経営基礎II、情報基礎II</li> <li>● 充実する教育環境 国内トップレベルの情報教育環境、SRC(全学的な学生の研究発表会)の開催、キャリア教育、資格取得</li> </ul>	<h3>日本を語れる グローバル人材を育てる</h3> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 自ら考え、行動する学生に</li> <li>● 新学科、新学部の創設</li> <li>● 気づき教育「自己発見」から「多摩大道入門」へ</li> <li>● イングリッシュ・シャワーと留学生交流 イングリッシュシャワー(必修英語プログラム)、T-SAP(多摩大学留学プログラム)、天津財経大学と交換留学制度</li> <li>● 講義中心大学からゼミ中心大学へ 成果あがるゼミ活動</li> </ul>	<h3>現代の志塾</h3> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 多摩グローバル人材の育成へ</li> <li>● アジアユーラシアダイナミズム</li> <li>● 寺島実郎監修リレー講座「現代解析講座」</li> <li>● インターゼミ「社会工学研究会」</li> <li>● 多摩学</li> <li>● ゼミカの深化へ — 「ゼミカの多摩大」として</li> </ul>
---	---	---	---	---

多摩大学教育史 <http://www.tama.ac.jp/guide/history/>

1987年	12月	多摩大学教学センター開設
1988年	4月	多摩大学設置準備会開設
	10月	多摩大学開学センター開設
1989年	4月	東京都多摩市に多摩大学を設置(設置者 学校法人田村学園)
		野田一夫初代学長就任
		年間講義案導入
		アドバイザー制度開始
		コア・タイム実施
		多摩大学総合研究所開設
		TIMIS JOURNAL 創刊
1990年	9月	第1回ティーチイン
	3月	退学勧告
	4月	第1回コミュニカレッジ実施
	10月	第1回VOICE実施
	12月	第1回VOICE実施
1991年	4月	経営情報学部入学定員160名より320名に増加
1992年	5月~7月	レジャー産業論をはじめ5つの公開寄付講座を 新宿京王プラザホテルで開講
		天津財経大学と学術協定を締結
1993年	4月	大学院経営情報学研究所開設
		多摩21世紀市民大学開講
1994年	3月	第1回FRC(Faculty Research Conference)開催
1995年	4月	中村秀一郎二代学長就任

	9月	TRAP(TAMA REENGINEERING ACTION PROGRAM)に基づく 経営基礎-情報基礎の授業開始
	4月	大学院経営情報学研究所博士課程設置
1996年	4月	グレゴリー・クラーク三代学長就任
1997年	4月	暗号解読法による英語教育開始
	3月	教職課程開設
	3月	多摩大学紀要発刊
1998年		第1回SRC(Student Research Conference)開催
2001年	9月	中谷巖四代学長就任
	10月	渋谷マークシティ WEST117階にルネサンスセンター開設
2002年	4月	自己発見開講
		イングリッシュシャワー開講
	7月	福城市教育委員会と教育協定締結
2003年	4月	T-SAP(Tama University Study Abroad Program)開始
2004年	1月	品川インターシティA棟27階にルネサンスセンター移転
		品川インターシティA棟27階に品川キャンパス開設
		情報社会学研究所開設
	4月	大学院3コース制へ(MBA、CLO、CROコース)
2005年	1月	統合リスクマネジメント研究所開設
2006年	2月	ロジスティクス経営・戦略研究所開設
	4月	経営情報学部マネジメントデザイン学科新設
		大学院5ドメインによる新カリキュラムスタート

2007年	4月	グローバルスタディーズ学部新設
2008年	4月	多摩大学湘南キャンパス開設(神奈川県藤沢市)
		野田一夫学長代行就任
		知識リーダースhip総合研究所開設
		特別講座(寺島実郎監修リレー講座)開講
2009年	4月	寺島実郎五代学長就任
		九段サテライトを開設
		インターゼミ(社会工学研究会)開講
	10月	湘南キャンパス内に国際交流センター開設
		多摩キャンパス内に地域活性化 マネジメントセンター開設
2010年	2月	第1回多摩大学地域プロジェクト発表祭
	3月	多摩大学ルネサンスセンター閉鎖
		多摩大学ロジスティクス経営・戦略研究所閉鎖
	10月	多摩大学・多摩市・多摩信用金庫の三者による 多摩市創業支援事業連携協定締結
2011年	4月	八王子サテライトを開設
2013年	3月	知識リーダースhip研究所を閉鎖
		統合リスクマネジメント研究所を 医療・介護ソリューション研究所へ改組
2014年	9月	多摩キャンパス新ファシリティ(T-Studio)竣工
2015年	4月	経営情報学部マネジメントデザイン学科を 事業構想学科に変更

### T-Studio (T-スタジオ)

1階：セブンイレブン 多摩大学店  
2階：ゼミ、サークルの活動や公開講座  
などに使用できるフリーレイアウト  
スペース

開学25周年を記念して建設(2014年)。  
学生アメニティに加え地域情報発信の拠点  
として活用されています。

# 多摩大学の理念

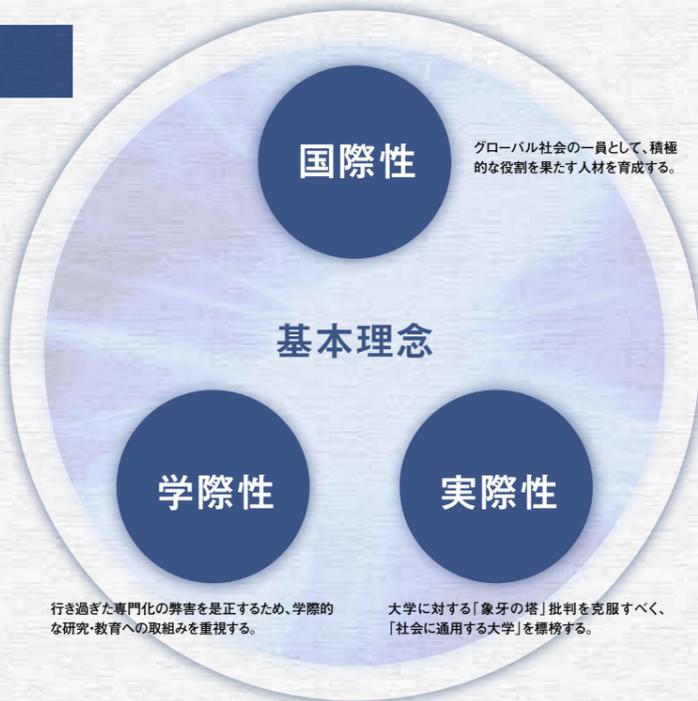
## 建学の精神

田村学園は、昭和12(1937)年10月に田村国雄が建学の精神「質実清楚・明朗進取・感謝奉仕」を礎として目黒区下目黒の地に社会に貢献できる女子実業人を養成することを目的として「目黒商業女学校」を設立し、幼稚園及び系列の短期大学と共に女子教育を行ってきました。  
その後の教育体制を整えるため、高等教育としては、平成元(1989)年に多摩大学(以下「本学」という)を設置し、中等教育は進学ニーズに合わせて男女共学の中高一貫教育への改組等を行い、現在では、多摩大学・大学院、多摩大学目

黒中学校・高等学校、多摩大学附属聖ヶ丘中学・高等学校、目黒幼稚園・大森双葉幼稚園・三宿さくら幼稚園まで、大学・大学院を頂点として幼稚園、中学校・高等学校・大学・大学院の一貫教育としての体制が整っています。  
本学園は、その目的を「豊かな個性を伸ばし、新しい時代に活躍できる人材を育成すること」と寄附行為第3条で規定し、国際感覚ある、心豊かな人材の育成を目指すことを明記しています。

## 大学の基本理念

建学の精神・学園の目的を踏まえ、平成元(1989)年大学開学時に本学の基本理念を「国際性」、「学際性」、「実際性」の3つのキーワードとしました。  
そして、国際化、情報化社会の進展に即応して、世界の中で大きな役割を担い、日本の将来を背負うという自覚に基づいた強い実行力と広い視野を持ち自らを厳しく律することができる高い倫理観のある人材を育成することに尽力してきています。  
さらに、開学20周年の平成21(2009)年を機に、本学の教育理念を、「現代の志塾」と定め、教育・研究・社会貢献の全分野の共通理念としました。



## 大学の使命・目的

本学の目的については、「学則」第1条に本学全体の目的を、「学則」第5条2項に経営情報学部の目的を、「学則」第5条3項にグローバルスタディーズ学部の目的を、「大学院学則」第1条に経営情報学研究科の目的をそれぞれ記述している。

「学則」第1条  
多摩大学は、永年に及ぶ産業教育における経験を基盤とし、国際化・情報化時代に即応して、学生に高度な外国語能力と世界に通用する教養・最新の経営知識及び的確な情報処理能力を修得せしめ、国際的ビジネスの場で活躍できる人材の育成を目指すとともに、わが国の産業社会の健全たる発展に寄与する指導的人材を育成することを目的とする。

「学則」第5条(抜粋)  
2 経営情報学部は、企業経営、情報科学に関する学

術と応用を教育研究し、高度の経営情報知識と、これを支える豊かな教養とを合わせ備えた創造的、実践的な問題解決能力を有する人材を育成することを目的とする。

3 グローバルスタディーズ学部は、文明・歴史・経済・多文化交流などに関する学術と応用を教育研究し、語学力を活用したコミュニケーション能力とグローバルな問題を解決できる能力を持ち、国際基準の知識とこれを支える教養をもとにグローバルな舞台上で活躍できる人材を育成することを目的とする。

「大学院学則」第1条  
大学院は、広い視野に立って精深な学識を授け経営情報学の研究教授を通じて創造的問題解決能力を有する高度な専門的職業人の育成を目的とする。

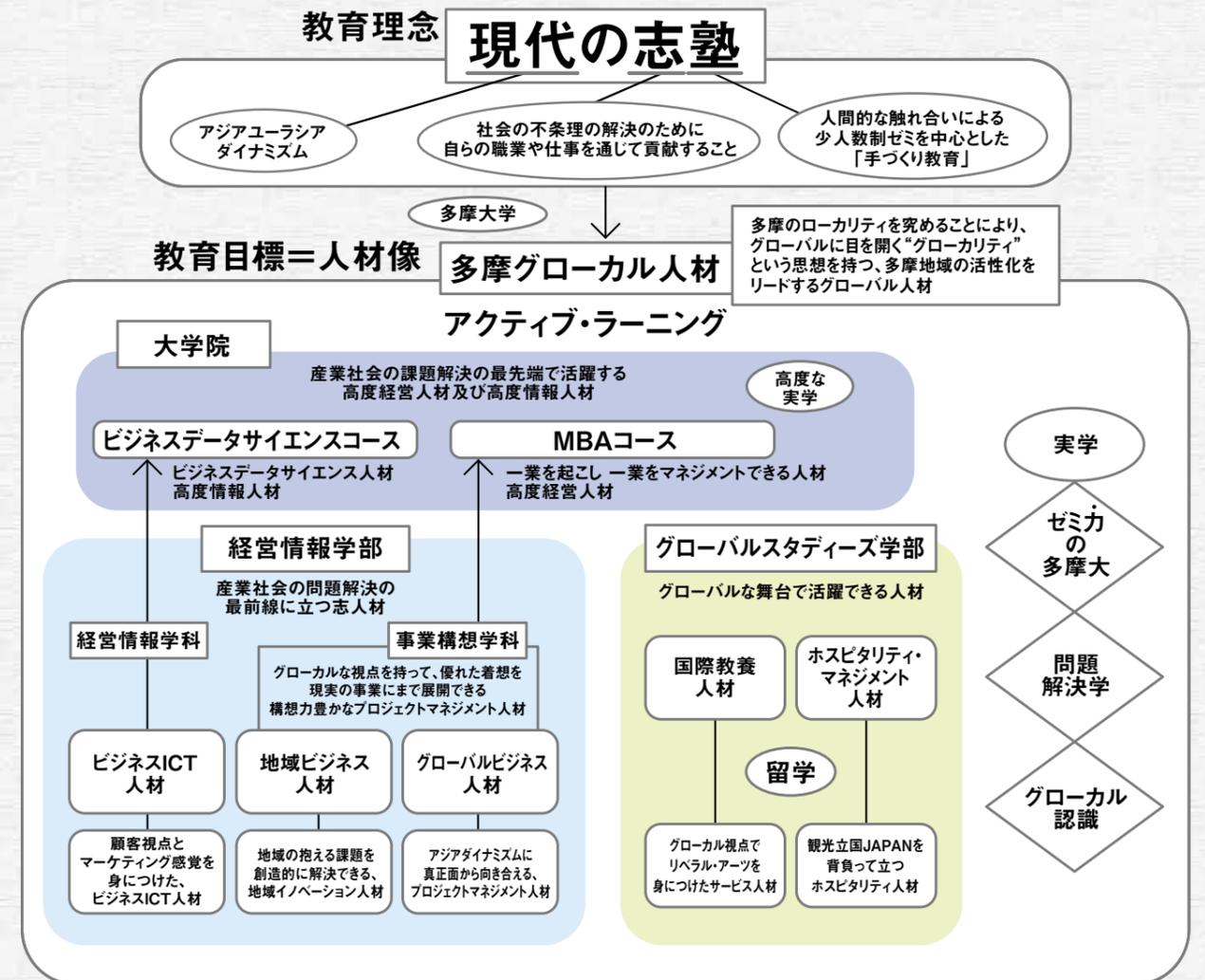
## 大学の個性・特色

本学は、基本理念に従い開学以来「実学」を標榜し、時代の最先端を走る産業界で活躍した人材を教壇へ多数登用する等、「実学教育」を一貫して実践してきた。開学20周年の平成21(2009)年を機に、この「実学教育」をさらに深化させるため、新しい時代の実学を「今を生きる時代についての認識を深め、課題解決能力を高めること」と再定義し、本学の教育理念を「現代の志塾」と定め、教育・研究・社会貢献の全分野の共通理念とした。

# 多摩大学の教育理念 = “志”教育

## 多摩大学が輩出を目指す人材像

本学は「今を生きる時代についての認識を深め、課題解決能力を高める」ため、教育理念を「現代の志塾」と定め、教育・研究・社会貢献の全分野の共通理念としています。  
「現代の志塾」とは「アジアユーラシアダイナミズム」の「現代」、社会の不条理の解決のために自らの職業や仕事を通じて貢献をする「志」、人間的な触れ合いによる少人数制ゼミを中心とした「手づくり教育」の「塾」を意味しています。  
実社会の問題解決の最前線に立つ「志」人材の育成に尽力するため、個性と特色にあふれた「ゼミカ多摩大」を形成しています。



経営情報学部の志

# 産業社会の問題解決の最前線に立つ志人材を育てる

グローバル化、少子高齢化など、日本はこれまで経験したことのない時代を迎え、企業が抱える課題は、経験則や成功体験が活かせなくなっており、問題を発見し解決できる人材が求められています。

本学部は「産業社会に存在する多様な問題解決の最前線に立つ志人材を育てる」を理念に掲げ、教育カリキュラムを再編。2014年度から新カリキュラム体制(産業社会論・問題解決学・最前線事例)に移行し、具体的教育成果につなげています。

教授陣の多くは企業出身者で、マーケティング、ビジネス戦略、財務会計、ICT、グローバルビジネス、Webデザイン、リサーチなど、さまざまな手段を駆使する最先端で実践的な「問題解決学」を教えることができます。

カリキュラムはゼミ中心に構成され、アクティブ・ラーニング(少人数、グループワーク、フィールドワーク)を多く取り入れた双方向型・参加型の授業を行っています。

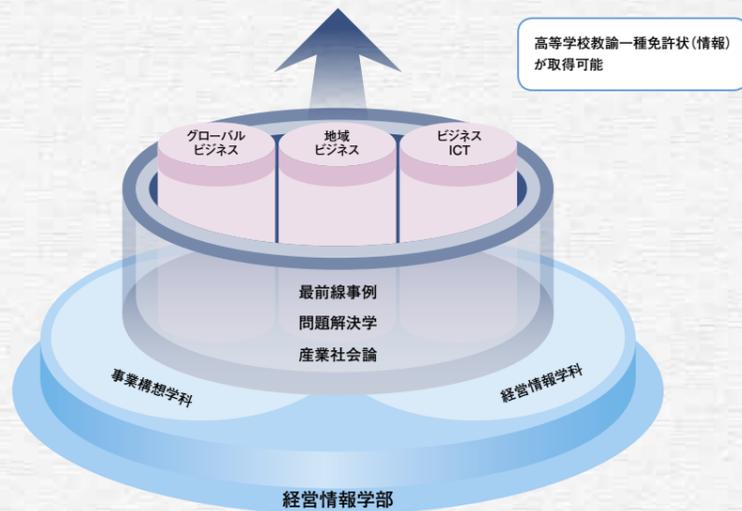


多摩大学 副学長  
経営情報学部 学部長

久恒 啓一

九州大学法学部卒業後、日本航空株式会社入社。広報課長、サービス委員会事務局次長などを歴任後、1997年に新設された宮城大学教授(事業構想学部)に就任。以降、活発な著作活動を展開する。著書は100冊を超える。2008年より本学教授、2012年より経営情報学部長、2015年より副学長に就任。

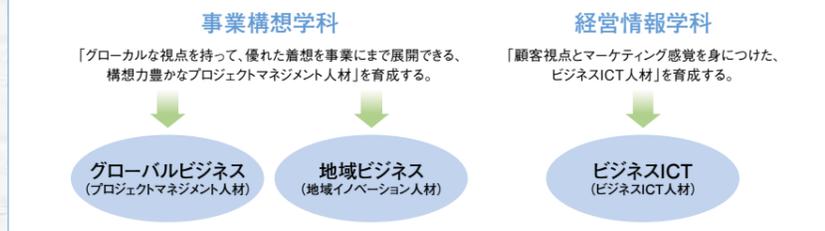
産業社会の問題解決の最前線に立つ志人材へ



経営情報学部のカリキュラム体系

- **産業社会論**  
産業社会の問題の分析・解決策の策定・実践に役立つ考え方や知識を広く学ぶことができるカリキュラムです。
- **問題解決学**  
知識を断片的に教えるのではなく、どのような知識や手法が、どのような問題解決に必要なかを身につけます。すべての科目を問題解決学のひとつの方法論として展開します。
- **最前線事例**  
少人数による双方向のセミナー形式の学び。産業社会や地域社会が抱えるさまざまな問題を取り上げ、解決策を提案・実施する実践力を養う実学教育プログラム。プレゼミ、ホームゼミ、プロジェクトゼミ、インターゼミの4つのゼミとして展開しています。

自身の興味や目標に合わせて選択できる2つの学科・3つの履修モデルを設置



【教授陣】

寺島 実郎 久恒 啓一

事業構想学科

- 金 美德
- 飯田 健雄
- 石川 晴子
- 小林 英夫
- 金子 邦博
- 下井 直毅
- 椎木 哲太郎
- 趙 佑鎮
- 杉田 文章
- 中村 その子
- 常見 耕平

経営情報学科

- 今泉 忠
- 出原 至道
- 大森 拓哉
- 栢原 伸也
- 清松 敏雄
- 久保田 貴文
- 齋藤 S. 裕美
- 浜田 正幸
- 巴 特尔
- 村山 貞幸
- 樋口 裕一
- 梅澤 佳子
- 大森 映子
- 奥山 雅之
- 中澤 弥
- 中庭 光彦
- 松本 祐一
- 彩藤 ひろみ
- 酒井 麻衣子
- 志賀 敏宏
- 中村 有一
- 増田 浩通
- 諸橋 正幸

グローバルスタディーズ学部の志

# グローバルな舞台で活躍できる人材を育成

近年、金融危機、地球環境問題、感染症対策などに見られるように、ひとつの国、地域で起きたことが、一瞬のうちに世界規模の問題になり、その解決には国を越えた取り組みが必要となります。またアニメやゲームなどの日本発の文化も世界に広がり、観光や旅行など人の移動がますます活発になり、それらを支えるホスピタリティ産業も発展しています。

しかし、このような発展は、グローバルな問題を引き起こす原因の

ひとつになっており、その対応や展開、課題の解決に日本の将来がかかっているのです。

グローバルスタディーズ学部が目指すところは「グローバルな舞台で活躍できる人材を育成」することです。これからは、自分の考えや思いを伝え、相手を理解するための英語力が求められています。本学部は学生個々の志を大切に、世界に通用する知性と問題解決能力を持つ人材を育てます。



グローバルスタディーズ学部  
学部長

ウィリアム シヤング  
安田 震一

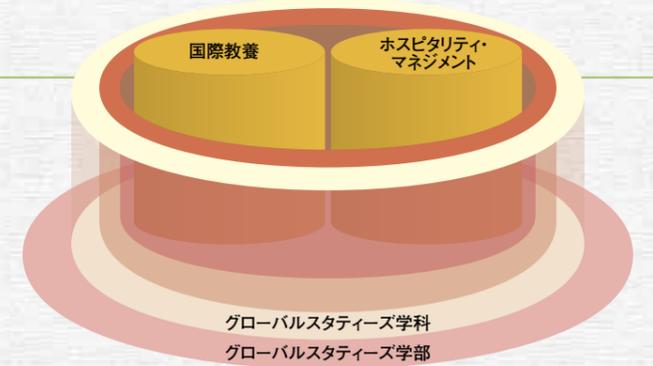
ラバーン大学(アメリカ)にて国際学および政治学を学び、コロンビア大学大学院在籍中に北京大学に留学し国際政治の研究を深めた。東京大学大学院地域文化研究専攻にて修士号および博士号を取得。香港大学アジア研究センター、岡山県吉備国際大学、東京大学国際ジャーナリズム寄付講座にて特任講師を経て現職。画像資料を用いた18-19世紀東西文化交流史を研究。

【教授陣】

- ウィリアム シヤング (安田 震一)
- 高橋 順子
- ブライアン イングリッシュ
- マーク ザイオン
- 小塚 暁絵
- 西井 賢太郎
- ウィリアム デルナ
- 竹内 一真
- 大森 映子
- ポール マーサー
- 市岡 浩子
- 小松 加代子
- テレンス ジョイス
- 堂下 恵
- 太田 哲
- 杉下 かおり
- 田中 孝枝
- 橋詰 博樹
- 良峯 徳和
- エリック ホノバ
- 張 琪
- 渡邊 泰典

グローバル社会に必要な「英語コミュニケーション力」と「問題解決力」を養成

- **基礎教育科目**  
グローバルな舞台では、国や地域によって文化や価値観が異なります。基礎教育科目では、このような多様な視点や考え方を学ぶことで、相違点だけでなく人間同士の共通点についても理解を深めます。環境や経済といった、地球全体で解決に取り組むべき課題について学びます。
- **英語集中教育(AEP)**  
1年次から2年次にかけて行われる英語集中教育が、AEPです。これは、本学部での専門分野の学びに必要な不可欠な英語力を習得するプログラムです。国際ビジネスの現場で通用する英語力を身につけるために、多様なもの見方に触れ、考えを深め、異なる文化で育った人に、自分の意見や意志を伝えられるようになることを目指します。  
AEP: Academic English Program



- 高等学校教諭一種免許状(英語)が取得可能(2015年度より教職課程のカリキュラム設置)
- 中学校教諭一種免許状(英語)課程認定申請中

幅広い選択肢を用意するグローバルスタディーズ学部

グローバルに活躍できる人材育成を目指す本学部は、海外だけに目を向けているわけではありません。国内にある企業でも、海外との関係を深めている企業は急速に増えています。そうした企業に貢献できる人材を育成することも、本学部の大切な使命のひとつです。

将来の進路を視野に入れた「2つのコース」(2年次より選択)

- **国際教養コース**  
ビジネス・国際関係分野など、あらゆるグローバルな舞台で活躍できる人材の育成を目指します。世界の多様な価値観や考えだけでなく自国の文化や歴史に対する理解を深め、幅広い教養を身につけます。同時に、グローバルな問題の解決に必要な英語コミュニケーション力も習得します。
- **ホスピタリティ・マネジメントコース**  
観光・レジャー・ホスピタリティ分野の職業人育成に特化したコースです。国際色豊かで、ホスピタリティ産業における実務経験の豊富な教員が、ホスピタリティのスキルとマインドを徹底指導。ホスピタリティを深く理解し、さらに実践する力を習得します。

# ゼミカの大摩大

## 育て、次代を担うイノベーターたち

### MBAコース

多摩大学大学院は、産業社会の課題解決の最先端で活躍する高度経営人材の育成を目指すMBAコースとして、課題解決の実践的ツールを学ぶ「実践知具」のカリキュラム群と、最先端のビジネスシーンでのイノベーション事例を学ぶ「最新ビジネス実践知」のカリキュラム群および時代を見抜く目を養う「教養基盤」のカリキュラム群とで、カリキュラムを編成し、立体的な学びを目指します。



研究科長・教授

#### 徳岡 晃一郎

東京大学教養学部国際関係論卒。日産自動車人事部、欧州日産を経て、2009年よりコミュニケーションコンサルティングでは世界大手の米フライシュマン・ヒラードの日本法人のSVP/パートナー。人事制度、風土改革、社内コミュニケーション、レピュテーションマネジメント、リーダーシップ開発などに従事。著書に「MBB: 思いのマネジメント」(野中郁次郎教授、一條和生教授との共著)、「ビジネスモデルイノベーション」(野中教授との共著)など多数。

#### 5つの特徴

- 特徴1 実践に徹底的にこだわった実学MBA
- 特徴2 仕事を続けながらMBAが取得できる。JR品川駅直結のキャンパス
- 特徴3 経営に革新を起こす「イノベーターシップ」を習得できる
- 特徴4 独自のリベラルアーツ講座群。リーダーに必要な教養と人間性を磨ける
- 特徴5 卒業後も続く、濃密な受講生ネットワーク



田坂 広志 教授



宇佐美 洋 教授



紺野 登 教授



河野 龍太 教授

## 育て、次代を担うデータサイエンティストたち

### ビジネスデータサイエンスコース

ビジネスの知はデータに宿る。ビジネス現場での課題・問題を知った人と組織こそ、データから知を引き出せる。今、求められるのは、ビジネスの最前線で活躍するビジネスパーソンがデータ活用力を身につけること。まさに、「ビジネス」データサイエンティストが求められています。



コース長・教授

#### 今泉 忠

多摩大学経営情報学部・経営情報学研究科教授。日本分類学会会長。日本行動計量学会理事。日本学会会議連携委員。統計検定運営委員会委員。統計的データ解析、とくに多変量解析を適用できる諸問題について、理論的研究と実際の解決法の研究を進めてきた。不十分な情報のもとでのモデル構成や非線形構造、時間的変化構造の分析法なども扱っている。

#### 5つの特徴

- 特徴1 分析手法を単なる知識としては学ばない
- 特徴2 2年を待たずに成果を得る
- 特徴3 充実の講師陣によるビジネスデータサイエンス実践
- 特徴4 先端事例と現場で活躍中のデータサイエンティストに学ぶ
- 特徴5 ビジネスパーソンならではの学びをサポート



ゼミを重視し、1年次から4年次まで開設しています。最前線の事例を取り込むことで、問題を発見し解決する能力を養い、社会の問題解決の最前線に立つ人材を育てます。

#### [プレゼミ]

対象：経営情報学部1年次



プレゼミでは講義を聞くだけではなく、議論、発表といった能動的な学習を重視しています。新入生にゼミの学習方法を理解してもらうための導入教育です。

#### [ホームゼミ]

対象：経営情報学部2~4年次



関心あるテーマを選択し、3年間かけて研究を深める専門ゼミです。その分野の専門家である教員が、卒業後のキャリア支援を含めた指導とアドバイスをを行います。

#### [プロジェクトゼミ]

対象：経営情報学部1~4年次



さまざまな学年、専門を持った学生が、半期または1年間かけてひとつのプロジェクトに取り組みます。社会で活躍する講師による実践的なゼミを通じて、総合的な問題解決能力を身につけます。

#### [トライアルゼミ]

対象：グローバルスタディーズ学部3~4年次



2016年度よりゼミナールを開講する準備として、2013年度秋学期よりトライアルゼミナールを実施しています。

#### [インターゼミ(社会工学研究会)]

対象：両学部1~4年次および大学院生



寺島学長が自ら塾長として主宰し、九段サテライトで開講している全学横断型のゼミです。両学部生と大学院生が参画し、テーマ毎のチームにより文献研究とフィールドワークで課題を解決しながらチーム論文に集約します。

経営情報学部 平成27(2015)年度 ホームゼミナール					
教員	ゼミタイトル	教員	ゼミタイトル	教員	ゼミタイトル
飯田 健雄	コーチングによるコミュニケーションを通して人間関係の構築およびビジネス英語でのコミュニケーションスキルの獲得	清松 敏雄	企業会計	中澤 弥	メディア論
石川 晴子	英語・コミュニケーション	久保田 貴文	ビッグデータを活用したビジネスにおけるデータ分析と問題解決	中庭 光彦	地域政策と観光まちづくり、コミュニティデザイン
出原 至道	日常生活を拡張する情報技術:新しい情報技術を自力で身につけ、独自の視点で課題解決に応用する	齋藤 S. 裕美	情報社会における倫理	中村 その子	広告・広報・ラジオ番組制作、イベント企画を主とした組織PR・マーケティングコミュニケーション
今泉 忠	データをもとに将来を評価する	彩藤 ひろみ	CG, イラスト, アニメーション, キャラクターデザインから都市計画まで、デジタルクリエイションと現実社会との融合を図る	中村 有一	情報技術で未来を創造
梅澤 佳子	全員参加型コミュニティデザインによるクオリティ・オブ・ライフの実現	酒井 麻衣子	【ビジネスの最前線で活躍するマーケティングデータ分析 - 企業との共同研究プロジェクトで実践的に学ぶ -】	巴特ホ(ハート)	日本とアジアの「架け橋」になる次世代ビジネスリーダー養成
大森 映子	歴史から現代社会を見直す	椎木 哲太郎	社会経済と歴史を通して、ライフデザインと問題解決能力を追究する	浜田 正幸	組織マネジメント
大森 拓哉	心理情報学	志賀 敏宏	イノベーション(革新)で輝く人生・世界を - スポーツ・ビジネス・観光等のマーケティングや戦略イノベーション	樋口 裕一	多摩地区に、そして日本に、クラシック音楽を広める
奥山 雅之	中小企業・地域産業活性化、地域ビジネスの起業	下井 直哉	日本経済論	久恒 啓一	図解思考塾
拓原 伸也	事業戦略、マーケティング戦略	杉田 文章	スポーツやレジャーを通じた豊かな社会づくりを構想する	増田 浩通	エージェントベースモデルと社会シミュレーション
金子 邦博	「儲ける」ことを科学する会計を学ぶ	趙 佑鎮	複眼的視点と歴史の意義 - マーケティング・流通・ベンチャー経営 -	松本 祐一	ソーシャルビジネス・コミュニティビジネスの事業開発
金 美徳	「業界・企業と就職・起業」	常見 耕平	「論語」を読む。	村山 貞幸	イベントの企画・運営を通じて、ビジネスのプロフェッショナルを目指す！ 社会人基礎力を徹底強化！
小林 英夫	組織行動と企業家精神	豊田 裕貴	マーケティング、特に消費者行動とブランドマネジメントをテーマに研究	諸橋 正幸	自然言語処理および人工知能

グローバルスタディーズ学部 平成27(2015)年度 トライアルゼミナール			
教員	ゼミタイトル	教員	ゼミタイトル
市岡 浩子	国際観光:主に日本へのインバウンドに焦点を当て、2020年東京オリンピックに向けた動向や大学周辺地域における国際観光について学ぶ / International Tourism: Focus on the Inbound to Japan, Movements toward 2020 Tokyo Olympic Games and International Tourism in Our Local Areas	堂下 恵	観光を通じた地域貢献・国際交流 / Local Contribution and International Interaction through tourism
太田 哲	*周辺地域に住む人々からの視点:インド・東北部ナガ族の研究	橋詰 博樹	ディベートで学ぶ環境政策:気候変動の科学と政策 / Debating on Environmental Policy: Science and Policy on Climate Change
Mark Zion	Judaism, The Origins Of Western Religions	Erik Honobe	漢文英訳基礎 / Ancient Chinese Through Translation - Basic Level
Terence Joyce	人の心と言語を理解する / Understanding the human mind and language	ウイリアム・シャング(安田 豊)	中国事情 / China and current issues
竹内 一真	採用心理学と経営学の最前線 / The Front Line of Research on Recruitment Psychology & Business Administration	良峯 徳和, 張 瑛	エンターテインメント(脳)科学する
		渡邊 泰典	ゲーム理論入門 / Introduction to Game theory

# アクティブ・ラーニングの 先進大学・多摩大学

多摩大学では、長年のゼミで培ったアクティブ・ラーニング(Active Learning)を講義でも展開中です。

近年、アクティブ・ラーニングというワードが文部科学省をはじめ多くの大学で使われていますが、多摩大学は開学当初より実践してきた大学です。多摩大学の授業では教員が教壇に立って一方的に話す『座学』ではなく、学生に向き合い、語りかけ、意見を交換するという双方向授業のスタイルです。

時には、学生自身が学生を教えることもあります。

すべての授業の中においてアクティブ・ラーニングを実践することにより、学生の理解度は、大幅にあがりました。

その結果、「経営情報学部 95.7% ※、グローバルスタディーズ学部 95.0% ※ (いずれも2015年3月卒業生)」という高い就職率をあげることに成功をしています。

※ 就職率(%)=就職決定者÷就職希望者

## 多摩大学ラーニングコモンズ



「ラーニングスペース」、「ディスカッションスペース」、「ディスカッションテーブル」等を用いて、学生同士や教員と学生の学習のための空間です。



2015年度プロジェクト型講義一覧					
1	～多摩大OBより伝授～ プロジェクトマネジメントを活用し、志を達成する	9	メディア実践論I ～メディアをつくる・大学発情報発信をめざして～	17	環境問題とビジネス創出2
2	若者との協働による若者向けマーケティング	10	メディア実践論II ～メディアをつくる・大学発情報発信をめざして～	18	地域プロジェクトマネジメントの手法I (多摩市のシティセールス「地域共存型コミュニティの形成」)
3	～現役ビジネス誌編集長が教える～ 就職活動に役立つ、自己プレゼン力養成	11	知的プロフェッショナル入門 ～社会人とのコミュニケーションを通じて視野を広げる～	19	地域プロジェクトマネジメントの手法II (ニュータウン再生プロジェクト)
4	事業構想入門講座(1)	12	アプリの開発～Webを活用して	20	集客施設のマーケティングI
5	事業構想入門講座(2)	13	顧客の再活用実践講座 ～CRMでの活用～	21	集客施設のマーケティングII
6	ディベート	14	スポーツデータ分析講座 ～スポーツを通してデータ分析を学ぶ～	22	編集プロデュース講座
7	日本と世界～メディアを通して考える	15	考力塾 = “記憶力”での勝負は終わった、これからは“考える力”	23	地域の歴史と偉人から学ぶ問題解決のための理論
8	食品メーカーにおける新製品開発の実際	16	環境問題とビジネス創出1	24	T-GROW

# グローバル社会との連携

## 海外研修プログラム／留学・海外インターンシップ

世界から日本を見直すことで、国際社会で果たすべき日本の役割が見えてきます。提携する大学や海外企業のインターンシッププログラムにより、リアルなグローバル社会を体験します。

### 国際交流センター



基本理念のひとつである「国際性」をさらに充実させ、グローバルに通用する大学を目指して、平成21(2009)年に設置しました。主な業務は、本学で学ぶ留学生の受け入れの促進、本学学生の海外留学促進、教職員の海外提携大学または機関との交流の3つです。多くの多摩大学生が、長期、短期の留学・インターンシップを通して世界を知り、グローバル社会で生きる力を身につけています。

### 留学プログラム

#### 経営情報学部

1週間以上3ヶ月未満の短期留学と3ヶ月以上の長期留学があります。1ヶ月の留学には4単位、6ヶ月の留学には16単位、1年の留学には40単位を認定します。

#### グローバルスタディーズ学部

10日間から1ヶ月程度の短期留学と1学期から1年間の長期留学があります。短期留学については2単位が認定され、長期留学については留学先で単位を取得した科目のうち、科目概要をもとに、SGSの科目に読み替え可能とみなされた科目について単位互換を行います。

## 地域連携／産学連携

学生が社会で実践できる問題解決能力を養える場として、地域活性化マネジメントセンターを核に、地域や企業と連携したプロジェクトに取り組んでいます。

### 地域活性化マネジメントセンター



地域の問題・課題を診断し、その解決を図り、地域の持続的発展に寄与する人材育成と、地域連携・地域貢献を目的とした、教員・学生の共同利用施設です。主に(1)地域活性化マネジメント履修モデルの登録学生・教員への支援サービス(2)多摩地域の課題解決の手法開発(「多摩学」の構築)(3)企業や自治体・市民団体等と様々な地域連携を行うための窓口の3つの業務を行っています。

#### 地域連携

多摩大学学生ボランティア団体が、公益財団法人 東京市町村自治調査会「平成25年度学生による地域貢献活動団体助成金」ボランティア活動報告会にて最優秀地域貢献賞を受賞

#### 産学連携

多摩大学・多摩市・多摩信用金庫の産官学三者連携

## 多摩学

グローバルのなかでのローカルの立ち位置として、本学では多摩地域を「三多摩」地域に限定することなく、多摩川流域と相模川流域を挟んだ圏域を対象として地歴的特性を重視した研究を深め、教育・研究・地域貢献に活かすプログラムを一体的に開発し、その分野の先駆的役割を確立することを目標としています。

## 多摩大学研究開発機構

多摩大学研究開発機構は、社会との連携が不可欠となった複合的な研究教育環境に対応して、学内の研究活動の有機的統合を図りつつ、学外との高度な共同研究・教育を実現し、産官学の研究交流、教育交流の成果を大きくあげることを目的としています。

### 寺島実郎学長自ら実践する最先端教育

#### 「寺島実郎監修リレー講座「現代世界解析講座」



世界各地の現況、海外から見た日本、国内の諸問題を、グローバル、ローカル、あるいは産官学と多角的な視点から取り上げることで、現代社会が抱えている問題意識を提起します。寺島実郎のネットワークを活かして講師を招き、学生だけでなく地域住民の方も受講しています。

### 多摩学電子新書

多摩の来歴を探り、多摩の現代について考え、多摩という視点から未来を構想する多摩学。多摩学電子新書には、教員・職員を中心とした多摩学の成果として、ホームページにて掲載しています。



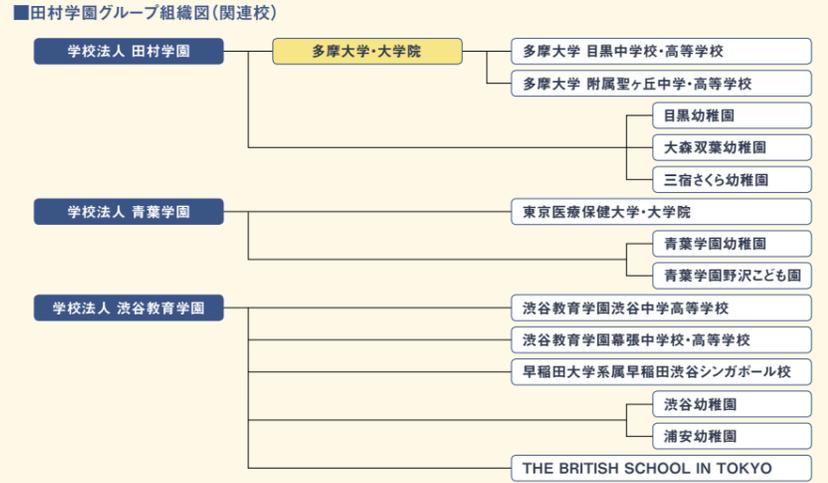
多摩大学総合研究所 <http://www.tmuri.jp/> 所長 久恒啓一

情報社会学研究所 <http://www.ni.tama.ac.jp/> 所長 公文俊平

医療・介護ソリューション研究所 <http://www.tama-mli.com/> 所長 真野俊樹

## 田村学園の概要図

田村学園は学園建学の精神「質実清楚・明朗進取・感謝奉仕」を礎とし、生徒、学生ひとり一人の豊かな個性を伸ばし、国際感覚ある、心豊かな人材の育成を目的としています。



## データで見る多摩大学 平成27(2015)年5月1日現在

### ■在籍学生数

■経営情報学部 (人)

学年	事業構想学科 ※		経営情報学科		計		
	男	女	男	女	男	女	
4	113	40	127	20	240	60	300
3	113	28	231	30	344	58	402
2	133	22	148	21	281	43	324
1	184	32	110	19	294	51	345
合計					1,159	212	1,371

※2014年度入学生までは、マネジメントデザイン学科、2015年度入学生は、事業構想学科

■グローバルスタディーズ学部 (人)

学年	グローバルスタディーズ学科		計
	男	女	
4	88	56	144
3	79	67	146
2	67	48	115
1	100	59	159
合計	334	230	564

■大学院 経営情報学専攻 (人)

課程	経営情報学専攻		計
	男	女	
修士	61	47	108
博士	2	0	2
合計	63	47	110

### ■収容定員

■経営情報学部

- 事業構想学科 800名
- 経営情報学科 480名

■グローバルスタディーズ学部

- グローバルスタディーズ学科 600名

■大学院 経営情報学専攻

- 修士課程 120名
- 博士課程 30名

### ■キャンパス面積

■多摩キャンパス 30,538㎡

■湘南キャンパス 14,375㎡

### ■サークル数

■多摩キャンパス 16

■湘南キャンパス 18

### ■蔵書数

■多摩キャンパス 150,149冊

■湘南キャンパス 33,414冊

### ■体育会

■多摩キャンパス 1

### ■卒業生総数

■学部別卒業生総数

学部	1期生	2014年度	卒業生総数
経営情報学部	1992年度	23期生	6,349名
グローバルスタディーズ学部	2010年度	5期生	538名
大学院 修士課程	1994年度	22期生	668名
大学院 博士課程	1994年度	22期生	8名(他論文博士3名)

## Information

**公式Facebookページ**

多摩大学では、公式Facebook(フェイスブック)ページを運営しています。さまざまな情報発信をしていますので、どうぞご覧ください。

<https://www.facebook.com/tamadaigaku>

**メールマガジン「現代の志塾」…多摩大通信**

多摩大学では、「現代の志塾」…多摩大通信として多摩大学からのメッセージを不定期のメールマガジンとして配信しています。ご希望の方は、以下のページからお名前とメールアドレスをご登録ください。

<http://www.tama.ac.jp/info/mm.html>

### ■マネジメント体制

■多摩大学 組織責任者

学長	寺島 実郎
副学長・経営情報学部長	久恒 啓一
事業構想学科長	金 美德
経営情報学科長	今泉 忠
グローバルスタディーズ学部長	ウィリアム シャング(安田 農一)
大学院 経営情報学専攻学部長	徳岡 晃一郎
学長室長	杉田 文章
メディア&インフォメーションセンター長	志賀 敏宏
地域活性化マネジメントセンター長	諸橋 正幸
国際交流センター長	ウィリアム シャング(安田 農一)
事務局長(兼多摩キャンパス事務長)	宮地 隆夫
湘南キャンパス事務長	清水 克己

■多摩大学研究開発機構 組織責任者

多摩大学研究開発機構長	諸橋 正幸
多摩大学総合研究所長	久恒 啓一
多摩大学情報社会学研究所長	公文 俊平
医療・介護ソリューション研究所長	真野 俊樹

多摩大学の経営母体である学校法人田村学園の最新の概要は以下のとおりです。

### 学校法人 田村学園 貸借対照表

[平成27年3月31日(平成26年度)]

(単位 百万円)

資産の部	前年度末	本年度末	増 減
科 目			
固定資産	21,858	22,365	507
有形固定資産	20,135	20,537	402
土地	11,746	11,746	0
建物	6,856	7,653	797
その他	1,533	1,138	△395
その他の固定資産	1,723	1,828	105
借地権	0	0	0
第2号基本金引当資産	1,500	1,600	100
その他	223	228	5
流動資産	4,554	4,614	60
現金預金	2,983	3,440	457
その他	1,571	1,174	△397
資産の部合計	26,412	26,979	567
負債の部			
科 目	前年度末	本年度末	増 減
固定負債	349	365	16
長期借入金	1	2	1
退職給与引当金	348	363	15
長期未払金	0	0	0
流動負債	1,009	1,312	303
短期借入金	1	0	△1
前受金	684	793	109
その他	324	519	195
負債の部合計	1,358	1,677	319
基本金の部			
科 目	前年度末	本年度末	増 減
第1号 基本金	28,709	29,349	640
第2号 基本金	1,500	1,600	100
第3号 基本金	92	92	0
第4号 基本金	397	397	0
基本金の部合計	30,698	31,438	740
消費収支差額の部			
科 目	前年度末	本年度末	増 減
消費支出準備金	0	0	0
翌年度繰越消費支出超過額	△5,644	△6,136	△492
消費収支差額の部合計	△5,644	△6,136	△492
科 目	前年度末	本年度末	増 減
負債の部、基本金の部、及び消費収支差額	26,412	26,979	567

### 平成26年度 学校法人 田村学園 計算書類 抜粋

(資金収支) (消費収支)

資金収入 (単位 百万円) 消費収入 (単位 百万円)

学生生徒等納付金収入	3,643	学生生徒等納付金	3,643
手数料収入	72	手数料	72
寄付金収入	100	寄付金	101
補助金収入	1,120	補助金	1,120
資産運用収入	39	資産運用収入	24
事業収入	169	事業収入	169
雑収入	119	雑収入	119
その他	444	帰属収入合計	5,248
前年度繰越支払資金	2,983	基本金組入額	△740
合計	8,689	消費収入合計	4,508

資金支出 (単位 百万円) 消費支出 (単位 百万円)

人件費支出	2,950	人件費	2,965
教育研究経費支出	1,035	教育研究経費	1,443
管理経費支出	513	管理経費	539
借入金等利息支出	1	その他	53
その他	750	消費支出合計	5,000
次年度繰越支払資金	3,440	当年度帰属収支差額	248
合計	8,689	(帰属収入合計-消費支出合計)	

当年度消費収支差額 (消費収入合計-消費支出合計) △492

### ■その他のデータについて

多摩大学およびその経営母体である学校法人田村学園は、私立学校として積極的に情報開示をしております。その他のデータにつきましては、ホームページに掲載しておりますので、ぜひご覧ください。

<http://www.tama.ac.jp/guide/open/>

## ■アクセスマップ

### 【電車利用案内】

#### ■多摩キャンパス

- 京王線 ● 新宿 → 聖蹟桜ヶ丘 …【特急】25分
- 新宿 → 永山 ……【特急・急行】25分
- 小田急線 ● 町田 → 永山 ……【急行】17分
- 表参道 → 永山 ……【多摩急行・東京メトロ千代田線直通】36分

※所要時間は最短時間で、待ち時間、乗り換え時間は含みません。  
※日時・交通状況などにより所要時間が変わりますので、必ず最新情報をご確認ください。

#### ■湘南キャンパス

- 小田急江ノ島線 ● 新宿 → 湘南台 … 50分
- 町田 → 湘南台 … 19分
- 横浜線・小田急江ノ島線 ● 八王子 → 湘南台 … 43分
- 相模鉄道いずみ野線 ● 横浜 → 湘南台 … 31分

